

宮津市 養老地区

ヒアリング対象：Nさん



小山有美恵さん

上世屋と京都市内の往復生活
「セヤノコ」主催



○子育てに関して

- ・子供たちは、少年野球・少女バレーにと忙しい。そのため、親も送り迎えに忙しい。ただでさえ人数も少なく、友達がやっていけば入るもん。そうしないと友達との話題も入れなくなる。
- ・自分の時は中学校でも1学年3クラスもあった。子どもが少なすぎる環境で育てるのはよくないと思う。地域の学校がなくなるのは悲しい思いもあるが、なにより何が子供にとって良いかを考えることが大切だと思う。
- ・息子が5,6年前に帰ってきた。
- ・子供のころ、自分の親は漁業・機業をして忙しかったため、おばあさんによく面倒を見てもらった。今は、孫にご飯をつくるなど家でできることはやっている。息子の嫁のパート始業時間が早くなって、今は妻が保育所へ送っている。孫の体調が悪い時は、妻を中心に孫の家で子守りをしている。
- ・孫は可愛い。自分が子育てしているときは忙しくてかわいいと思う余裕もなかったが、孫は距離をおいてみれるので可愛くて仕方ない（奥様談）
- ・基本は、各々の家で食事している。毎回のようにおかずを差し入れし合っている。子どもの誕生日会など子ども家族だけでやりたそうなときは特に何にも言わない。一緒に暮らしてもなんでもありとは違うと思っている。
- ・自分たちが若い時は親に気を使って、今は若嫁さんに気を遣う。そういう世代だと思う。



○養老地区での生活に関して

- 田舎の方が食生活は充実していると思う。神戸に住む弟家族も養老の魚がおいしいと言っている。
- 地域行事も昔に比べると少なくなってきた。11月8日のこうど祭は隣組単位で祝うがやらない組もある。集落全体での行事にできないかと考えている。
- 岩ヶ鼻に空家が、12、13軒ある。顔のみえる関係なら貸してくれるけど、てくる人にもよる。岩ヶ鼻は外からの人を温かく受け入れる、そんな雰囲気が昔からある。養老駐在所もある。
- 昔から働き盛りの若者世代は働き、家のことはおばあさん、畑は年寄りさんがやる。そういう役割分担があった。